

広報編集特別委員会

2年間の任期満了となり解散します。
ご購読ありがとうございました。

市民の皆さまが、よりわかりやすく読みやすい「市議会だより」を目指して編集委員一同、ああでもない、こうでもない、と、年4回の定例会報告を編集してきました。

このメンバーでの2年間は、コロナ禍により、おでかけ市議会の開催は中止になり、殆どのイベントや行事も中止になり、写真や話題を掲載できず、市民の皆さまには物足りなさがあったかもしれません。4/17投開票の仙北市議会議員選挙後に新たに編成される広報編集特別委員会に期待していただくことにいたしまして、まずは、発展的に解散させていただきます。ご購読ありがとうございました。



控室

第三セクターの統合

議会広報編集特別委員会副委員長 武藤 義彦

仙北市では、経営状況が悪化している第三セクター4社の統合を発表した。赤字のままに独立した状態では、雇用や資金調達に課題があり経営立て直しは困難であるとして、赤字部門となっている事業の撤退や、サービス内容の変更等により、黒字化に向けた支援を進めるとしている。

経営改善に向け、コンサルに業務委託し、現状分析の結果を踏まえ4社統合による永続的に運営できる仕組み・体制の構築を図るとしている。今後7月を目途に統合とするが、各施設においてはしばらく通常営業を続けるという。4社の借入金約2億7千万円程であるが、一旦仙北市で肩代わりし、新会社が3年据え置き後に償還を行うとして、新年度予算に第三セクター経営改善支援貸付金を計上している。議会内では、経営の黒字化・円滑な償還等について様々な議論があったが、今後の経営改善の見通しは未知数である。

市としては、債務が膨らむ前のもっと早い段階での行政判断が必要であったと思う。黒字化を進めるためには、大胆な改革が不可欠であるが、施設を長年利用してきた地元の声にも耳を傾けてほしいものである。

人事案件(敬称略)

雲沢財産区管理委員 藤原 房雄 (77歳)

任期 仙北市角館町下延竹市野一四一―一
令和四年五月八日～令和八年五月七日

仙北市議会議員一般選挙の日程(定数 16)

※令和4年4月30日任期満了

- ◇告示 令和4年4月10日(日)
- ◇投開票 令和4年4月17日(日)

※4月11日(月)から期日前投票ができます。
※みんなで投票に行きましょう!
※あなたの一票が仙北市を大きく変えるのです。

編集後記

議員の任期(4月30日)が間近かに迫る中、2月定例会の

本会議一般質問には予定通り8人が登壇した。市長の質疑応答は2回目であり、市民の満足度を高める施策や効果を検証しながら貴重な財源を使うという自身の公約を予見させる落ち着いた対応であった。

範囲が市の行財政全般の他、地域の住民生活に密着している事項など多岐にわたって質問が許される。一般質問には、補選で当選されたベテラン、新人二議員も登壇し市民の豊かな生活の向上のために、それぞれの議員の持ち味を発揮し熱弁を振るった。

2年前編集委員長を引き受けた際、編集後記に「わかりやすい議会だよりをお届けします」と書いた。議会だよりがこの目標をクリアしたのかどうかはわからないが、編集委員一同にはその目標に向かい努力を頂いたことに感謝を申し上げる。

任期途中で県議選の為、辞職された田口、高橋(豪)委員にも感謝する。又前半2年、後半2年交代の委員を最後まで続けていただいた平岡、熊谷、高橋(輝)、武藤、門脇委員には重ねて感謝申し上げたい。平和の祭典、パラリンピックの開催中、ロシアのウクライナへの侵略が報じられた。

我が国が70余年前に終結した戦争が今、他国で起きている。見ざる、言わざる、聞かざるの状態におかれた我国民は悲惨な結末を迎えた。民主主義の自由は大変な代償を払い手に入れたものである。

今まさに選挙戦が幕をあける。言論の自由は民主主義の根幹である。市民生活向上の為の支持を競うべきである。

ひとつ心残りがある。コロナ感染症の拡大の為、難儀をかけた編集委員に慰労の場を持てなかつたことである。

(議会広報編集特別委員会委員長 八柳良太郎)